

SHIRAKOBATO

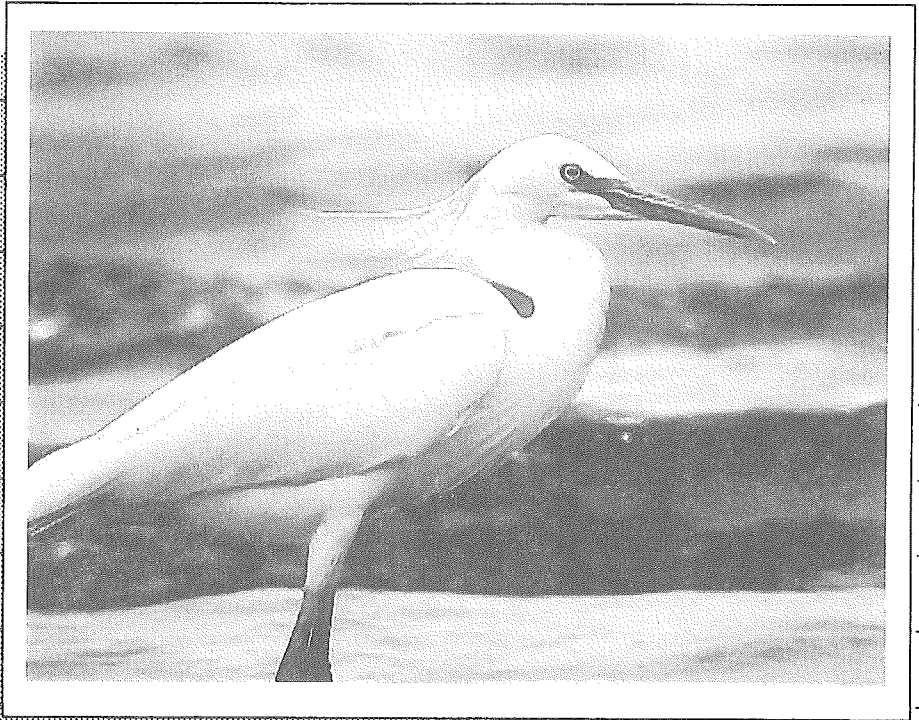
しらこぼと



1998. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 173

日本野鳥の会埼玉県支部

休耕田の新しい試み

海老原美夫（浦和市）

昨年から、神奈川県海老名市内で、秋の渡りのシーズンに、休耕田を利用してシギ・チドリたちの中継休息地を整備しようという試みが始まりました。今回は、この試みについてご紹介します。

●場所

JR相模線、小田急、相模鉄道の3線が乗り入れている海老名駅の東口を出て大通りを右折、南に向かって10分くらい歩くと、右側に海老名市役所が見えてきます。その向い側、進行方向左手のあたりが、新しい試みの舞台、勝瀬地区の休耕田です。合計約3haの広さがあります。

10数年前から休耕田になっていて、春には市主催のレンゲ祭が開かれる所ですが、秋にはシギ・チドリ類、特に何種類かのジシギ類が立ち寄りところとして、一部のバードウォッチャーには知られていました。

私もジシギ類の勉強のために、1996年の秋から、出かけています。

●神奈川支部の呼びかけ

ここに、8月から9月にかけて、草を少なくして浅く水を張り、シギ・チドリ類が降りやすい環境を整えようと、日本野鳥の会神奈川支部（浜口哲一支部長）が提案しました。

そして、地元の勝瀬生産組合や中部営農組合、県農業改良普及センター、県農業総合研究所、JA神奈川県経済連、JA神奈川県中央会などの協力が得られて、水の管理の都合上、野鳥だけを優先というわけにはいかないが、できるだけということで、1997年秋から実行にうつされたのです。



エリマキシギと海老名市役所

●3つの約束事

その際に、農家の方々から、野鳥の観察自体は構わないが、多くの人たちが集まるのが心配だという話が出されて、次の3つが特に約束されました。

- ①ゴミは残さない。
- ②農作業の邪魔になる駐車はしない。
- ③畦にまで入り込まない。

どれも当然なマナーです。神奈川支部ではボランティアを募り、土曜・日曜にパトロールや調査を行いました。

●1997年秋の環境整備の経過

8月上旬は水路の水が不足して、休耕田に水を入れることが出来ませんでした。8月14日と19日にはトラクターで耕耘して、水を入れることができました。8月21日には畦の草刈りが行われて、9月19日に水が抜かれるまで、その状態が続きました。

●どんな鳥が観察されたか

神奈川支部のまとめた資料によりますと、頭上を飛んだチョウゲンボウなどを除いて、水鳥としては次の23種が観察されました。

ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、バン、コチドリ、ムナグロ、トウネン、ヒバリシギ、エリマキシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、イソシギ、タシギ、ハリオシギ、チュウジシギ、オオジシギ、アカエリヒレアシシギ。

ムナグロは、8月14日にトラクターが入るのを待ちかねたように飛来し、8月18日には100羽の群れが見られました。

エリマキシギは、9月5日から13日まで2羽が滞在。人を恐れずに数mまで近付いて、カメラマンたちの人気を集めていました。私も、日本国内でこんなに近く野鳥が近寄って

来たのは初めての体験でした。

個体数が多かったのは、コチドリ、ムナグロ、タシギの3種。期間中は平均して約100羽の水鳥類が観察され、最も多かったのは、9月8日の178羽だったとのこと。

特筆に値するのは、やはりオオジシギ、チュウジシギ、ハリオシギのジシギ3種が比較観察できたことでしょう。

●バードウォッチャーたちは

土曜日曜を中心に、神奈川県内だけではなく、東京や埼玉からもおとずれ、最も人数が多かった9月14日の日曜日には、70名を超えたとのこと。

神奈川支部の支部報『はばたき』の1998年3月号に、支部リーダーの船木暉子さんが書いた「海老名休耕田から」というレポートによると、パトロールの度に多くの空き缶やゴミを拾ったが、もともと通行人のゴミの投げ捨てが多い所であって、特にバードウォッチャーによる投げ捨てはなかったように思われる。ただし、空き缶の置き忘れはあり、観察者が多かったところでは、煙草の吸い殻をかなり拾ったとのこと。

人目の少ない早朝などには、畦に入り込む人もいました。一人が畦に入り込んでジシギを追いつき、その仲間が、飛び立つ瞬間を撮影していたという、どこにでも出没する困った写真屋達です。

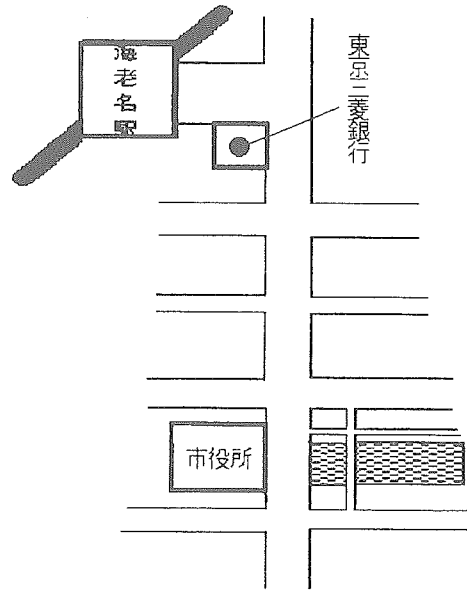
少数ですが、農道に駐車する人達もいました。また、農道とは言え、多くの住民が生活道路として利用していますが、観察者が一か所に集まってしまっていて通行の妨害となり、ご迷惑をお掛けしてしまった事もあります。

通り掛かった農作業用の車に対し、「なぜ狭いところに車が入って来るのだ」とにらみつけた勘違い人間もいたようです。

●忘れ物のないように

埼玉県支部の支部報でこのご紹介をしたのは、

- 1、近県支部での新しい貴重な試みを知ってほしい。
- 2、そして、折角ですから、埼玉ではじっくり観察する機会に恵まれない種類のシギ・



チドリについて、勉強ができれば。

3、ただし、神奈川支部とその協力者達の今までの経緯と努力を知り、それを理解・尊重してほしい。と考えたからです。

ここに警察署を建設したいという話もあって、いつまで継続できるかは分かりませんが、少なくとも今年はこの試みは続くはずで

す。埼玉からお出かけになる時には、3つの約束事と、フィールドマナー、更に、社会人として当たり前の常識としてのマナーも、いつも通りお忘れなくと、埼玉の小言幸兵衛としては、老爺心（こんな言葉はなかったかな）から一言申し上げたかったわけですよ。



オオジシギとタシギ

野鳥記録委員会最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

●オウトウゾクカモメ

目科 チドリ目トウゾクカモメ科

学名 *Catharacta maccormicki*

英名 South Polar Skua

(英語による別名 McCormic's Skua)

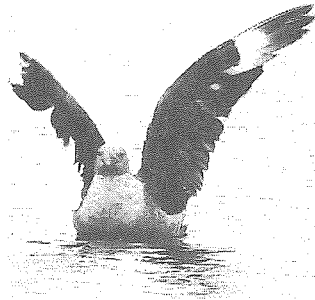
1998年6月28日(日)午前8時40分頃から翌29日(月)にかけて、手塚正義幹事が浦和市下山口新田地区の芝川第一調整池でビデオ撮影した。(このページの写真は、2枚とも同幹事撮影のビデオ映像から)

知らせを受けて駆けつけた多くのバードウォッチャーが、釣り人が捨てた魚や浮き上がった死魚をついばんだり、あたりを飛び回っている姿を観察、写真撮影などをしたが、29日(月)午後4時頃が最後で、その後は観察されていない。

カモメやミズナギドリ類を襲って、捕らえた魚を吐き出させて奪うことが知られている本種は、日本では春から夏にかけて主に太平洋上で見られるが、県内では初記録。当委員会(小林みどり委員長)作成の県内鳥類リストには、301番目に追加される。

なお、日本野鳥の会発行の『フィールドガイド日本の野鳥』には、オウトウゾクカモメ *Stercorarius skua* として、腹部から頭部が茶色のイラストが掲載されているが、このタイプのオウトウゾクカモメは大西洋の北部で繁殖し、大西洋だけを回遊している。太平洋側、即ち日本近くで見られることはない。

日本鳥類保護連盟発行の『鳥630図鑑』では、オウトウゾクカモメ、学名 *Catharacta maccormicki*、英名 South Polar Skua と、本



文の冒頭と同じ表記になっているが、イラストはやはり腹部と頭部が茶色のタイプになっている。

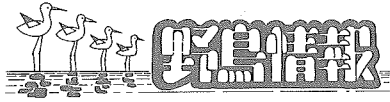
今回観察された個体は、腹部から頭部が白く、これらとは異なる。和名ではナンキョクオウトウゾクカモメとも呼ばれる *Catharacta maccormicki*、South Polar Skua であり、南極近くで繁殖し、大西洋や太平洋に広く回遊する。つまり、太平洋に位置する日本近海で見られるオウトウゾクカモメは、すべてこのタイプである。

例えば Peter Harrison 著『SEABIRDS an identification guide』のように、ナンキョクオウトウゾクカモメとオウトウゾクカモメを別の種とする考え方もあるが、ナンキョクオウトウゾクカモメはオウトウゾクカモメの亜種であるとする考え方が普通であると思われる。山階芳麿著『世界鳥類和名事典』にも、ナンキョクオウトウゾクカモメは別種としては掲載されていない。

『日本鳥学会誌』Vol. 46, No. 1, 1997年6月号に掲載された日本鳥学会目録編集委員会著「日本産鳥類リスト」には、現在出版が計画されている日本鳥類目録第6版に収録する日本産鳥類リストがとりあえず公表されているが、オウトウゾクカモメ属は「オウトウゾクカモメ *Catharacta maccormicki*」とのみ掲載されている。

したがって、今の段階では、冒頭の表記で記録するのが妥当と思われる。





川本町荒川明戸堰上流 ◇6月21日、オナガガモ♂1羽。羽でも痛めているのであろうか、なぜか1羽残留。コチドリ3羽、イカルチドリ3羽、イソシギ5羽、コアジサシ1羽、ゴイサギ1羽、ダイサギ2羽、チュウサギ2羽、アオサギ3羽、コサギ3羽、ホトトギス1羽、カワセミ1羽。7月25日、ゴイサギ成鳥3羽、若鳥2羽、ササゴイ2羽、アオサギ3羽、ダイサギ3羽、イソシギ2羽、カワセミ1羽、カッコウ1羽、オオヨシキリ2羽（飛び回っていたが、全くさえずりはなかった）、他にタヌキ1頭（後藤康夫）。

大宮市芝川周辺 ◇7月5日、水辺の鳥が繁殖ラッシュです。池でカイツブリとバンが繁殖し、現在子育て中です。親子の微笑ましい姿を観察できました。それから、コチドリも抱卵中のようです。芝川でもカイツブリが子育ての真最中です。今年は雨が多く何度も巣を流されて、繁殖できないかと思っておりましたが、3羽が立派に育っていました。また、見沼田んぼの休耕田では、ヒクイナがヒナ（2羽まで確認）を連れて歩き回っていました。親鳥が警戒音を発するとヒナ達は一目散に草の中に逃げ込みましたが、真っ黒な毛糸玉が転がっていくようで、トトロの「真っ黒黒助」を見ているようでした。親鳥はこちらの注意を引くためか、わざとゆっくり餌をついばみながら移動していきました。たいしたもんです（浅見徹）。

寄居町風布～東秩父二本木峠 ◇7月11日、サンコウチョウ♂♀各1羽、コサメビタキ

1羽、カケス1羽、アカハラ、ヤブサメ、ヤマガラ、ホトトギス、クロツグミ、イカル。サンコウチョウの♂が、大変素早く飛び回っていて、さえずりもよく聞くことができた。二本木峠では、クロツグミのさえずりが響きわたっていた（後藤康夫・喜久子）。

三郷市江戸川 ◇7月18日、上葛飾橋付近でカッコウ2羽。早朝5時半頃、1羽が突然鳴きだし、木の枝の間に姿を発見。しばらくして、岸辺の木から土手に降りてきた。土手の枯れ草を1枚口にくわえて再度木に戻る。その内にもう1羽のカッコウも飛んできて、同じ木の影に隠れる。5時40分頃、江戸川の上流へ2羽飛び立つ。途中オオヨシキリが、カッコウを追いかける。モズ♂1羽（岩瀬和志）。

川越市今福 ◇7月20日、畑でキジ♂1羽とそれを猛追したが、失敗に終わったオオタカ1羽（上野英士郎）。

嵐山町川島市野川周辺 ◇7月20日、ゴイサギ8羽、ササゴイ1羽、チュウサギ1羽、コサギ2羽、カルガモ成鳥2羽、若鳥3羽（後藤康夫・喜久子）。

蓮田市元荒川 ◇7月30日、東北自動車道橋下流の岸辺にカラスが3羽。近づくとかラスは飛び去り、そこから1羽の水鳥が泳いで行く。カルガモより小さく、首はため、頭部は丸みがあり鮮明な茶色で目は赤、胸部のふくらみは濃い茶褐色か黒に近い色、くちばしは黒、背は薄く茶色の混じったような銀ネズミ色、尾羽は黒っぽい色。以上のことから、季節は夏であるが、ホシハジロと断定した。また、29日には、宮前橋近くでカワセミの瞬間の飛翔を見た（道祖土修一）。

表紙の写真

カラシラサギ（サギ科）

今年もそろそろニセカラシラサギ騒ぎの季節だなと思っていたら、8月1日（土）夜、若き鳥友A君から、船橋海浜公園に成鳥夏羽1羽がいると電話連絡。翌2日（日）に撮影したのがこれ、ホンモノカラシラサギ。

白いクロサギに似た短足体型、がっしりと

黄色のくちばし、目先の青、全体に短めの独特の冠羽…。はいはい、文句ありません。

環境庁レッドデータブックでは「希少種」にカテゴリー区分。

海老原美夫（浦和市）

フィジーで出会った野鳥たち

川崎洋子（春日部市）

旅好きの私は鳥に関しては初心者ですが、行く先々で「お気軽バードウォッチング」を楽しんでいます。海外に出かける時は、今度は何んな珍しい鳥に出会えるかと、わくわくします。特に南の国では、色鮮やかな鳥が多くて、目を楽しませてくれます。

南太平洋に浮かぶフィジー諸島。私たち夫婦が行った2月末から3月初めは真夏。首都のあるヴィティレヴ島のすぐ西の小島、マナ島に主に滞在しました。

島全体が一大レジャーアイランドになっていて、ホテルは一戸建て風のコテージスタイル。コテージはもちろん、ロビー棟もレストランも天井で4枚羽の扇風機が回っているだけでエアコンはなく、お風呂もシャワーだけ。蒸し暑いけれども、久しぶりに自然の生活を取り戻したようで、嬉しくなっていました。

もともとの旅の目的は、魚と遊ぶシュノーケリングでしたが、フラン・ボワイアン（火炎樹）の真紅の花をはじめとする色とりどりの花々、チョウ、トカゲ、それに鳥との出会いもありました。

黒い羽に黄色の足と嘴の Island Thrush（タイワンツグミ）はどこでも見られました。毎晩のように真夜中にコテージの屋根に止まってきれいな大声でさえずり、眠りを覚ましてくれました。本島のホテルでは、オープンエアのレストランの鳥よけの金網の切れめから入り込んできて、テーブルに乗ったり、地面を歩き回って、こぼれたごちそうをつついたりしていました。

マナ島の北ビーチには、カワセミがいました。砂浜の細い枝先に、時々頭を巡らせて辺りを見回すほかはほとんど動かず、まるで哲学者のような姿で止まっていました。この木はこのカワセミの縄張りらしく、よく同じ場所で見られました。時には、2羽でいることもありました。たまに浜辺に舞い降りて、虫を捕ったりもしていました。

北ビーチの展望台から見下ろすと、目の下

の崖のあたりをSwiftlet（アナツバメ）が飛び交っていました。ここには彼らが巣を作るのに格好の懸崖や、木の生い茂る丘があります。とにかく飛ぶのが早いので、ゆっくり観察できないのが残念です。

前回のフィジー訪問は、2年前の9月でした。早春に当たる季節で、今回とはまた違った鳥が見られました。

ヴィティレヴ島の西海岸、デナラウ・ビーチのホテルの海に面した庭で、ちょうど我々の客室のすぐ近くのヤシの木に、美しい鳥が7羽飛んで来て止まりました。

体長20cmほど、頭から尾羽にかけては鮮やかなグリーンで、腹側は緋色。フィジー名“クラ”、英名Loryというインコの一種で、こちらではかなりポピュラーな鳥だそうです。西南部のコーラル・コーストには、この鳥のエコパークがあるということなので、もしかしたら、そこから遊びに来たのかも知れません。

ホテルの芝生の上では、スズメ位の小さな鳥が群れて遊んでいました。その色ときたら、全体が緑色で、頭と尻尾が真っ赤なのです。日本だったら目立ち過ぎてたちまちペットにされてしまいそうですが、ここフィジーでは、赤い花や芝の緑に溶け込んで、保護色になっています。

実際、我がダンナが何気なく覗き込んだ赤い花の中からこの小鳥が飛び出して来て、びっくりしていました。

フィジー名“クラライライ”、Red-headed Parrot Finch（セイキヒノマルチョウ）といい、草地などで割合よく見かけられる鳥だそうです。

ちなみに、こちらではスズメは見かけません。

これらの鳥の名前については、フィジーで購入した“BIRDS OF FIJI”という本を参照しました。私は、鳥や花などの図鑑を、可能な限り現地調達しています。その土地にしかない種類も載っていますし、何より価格が間違いなく日本で買うより安価です。

帰国してから、時々開いて眺めるのも楽しいものです。

私の○○タカ感想

畔田裕子 (川越市)

朝8時、いつもの地点でピーッとすどい鳴声。子供の頃、映画で見たラドンの雛とよく似ている。ふつう動物などは、親がそばに居ないとじっとしていて鳴かない。巣立ちしたあとの若鳥は鳴くのかしら。

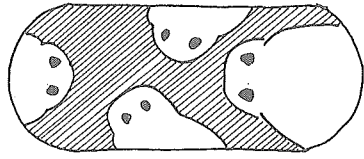
午前10時40分、50m先の林の上空をV字隊形にカラス大の黒いかげが3羽。カメラをとりに室内に戻る30秒程の間に、屋根の上空にさしかかり確認できず。

カラスも上空を飛ぶ。でも、あんなに風をはらんで、まるでカイトの様に飛ぶかしら。見た大きさは小指の爪かその1/2ぐらい。気のせいだと思うけど、カラスより尾翼が短い感じ。見たのは薄茶とベージュの波紋模様。このまま北に向かってしまうのかと思うと淋しい。

通勤途上の野鳥情報

山部直喜 (三郷市)

吉川市中曽根 ◇5月10日、今年も跨線橋でのチョウゲンボウの繁殖を確認できた。巣に利用している穴を見上げると、雛4羽と



目が合った(図参照)。なぜか見てはいけないものを見たような気がして、そそくさとその場を離れた。また、この跨線橋で今年、少なくとも3番いの繁殖を確認した。吉川市高久 ◇6月4日、ケリ2羽。1度、チョウゲンボウが頭上から攻撃。軽くスウェイバックしてやり過ごす。

越谷市大成町 ◇6月6日、大相模小学校のクスノキで、アオゲラのピョー、ピョーに似て、もっと金属的にピー、ピーの鳴き声。

双眼鏡で捜すと2羽のコゲラ。繁殖期のさえずりかもしれない。6月28日午前7時ごろ、大相模小学校に隣接する民家の枯れ木に巣穴を掘る。6月30日、穴から顔を出す。繁殖の期待が高まる。

白頭鷲の英名講座・第19回

オオトウゾクカモメ - Great Skua

この凄い名前の大物が、1998年6月28日、なんと埼玉県支部の総会の当日に海無し県の埼玉に出現し、「総会を中止して見に行こうではないか！」と色めき立ったものでした。

「トウゾク=盗賊」という名は、正に「海の猛禽類」と呼ばれるように、トウゾクカモメ科の鳥は、非常に優れた飛翔力をもってカモメ類を威嚇し、持っている餌を強奪するところから来ています。

日本野鳥の会の『フィールドガイド日本の野鳥』には、4種類のトウゾクカモメ類が載っていますが、それぞれの英名は次の通りです。

- オオトウゾクカモメ Great Skua
- または Bonxie
- トウゾクカモメ Pomarine Skua
- または Pomarine Jaeger

- クロトウゾクカモメ Arctic Skua
- または Parasitic Jaeger
- シロハラトウゾクカモメ

Long-tailed Skua

または Long-tailed Jaeger

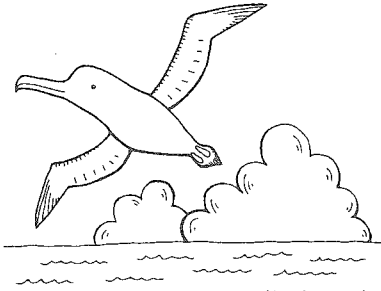
「Skua」はもともと鳴き声に由来するもので、これ自体でもオオトウゾクカモメを意味し、「Jaeger」はドイツ語の「略奪者」「泥棒」に由来して、Skuaより小型で、尾羽の真ん中が長く突き出ているものを呼びます。

支部総会の日に本県に出現したオオトウゾクカモメは、厳密に言うとなンキョクオオトウゾクカモメとも呼ぶ、英名でSouth Poler Skuaという種類であることは、野鳥記録委員会の報告で詳しく述べられています。

見られた人は、実にラッキーでしたね。

松井昭吾 (大宮市)

行事あんない



(何森 要)

◆9月5日 千葉県小櫃川河口探鳥会は8月号をご覧ください。

千葉県・船橋海浜公園探鳥会

期日：9月6日（日）

集合：午前9時30分 JR総武線船橋駅改札口付近、集合後京成バス9:40発船橋海浜公園行きにて終点下車

担当：菱沼（一）、中村（栄）、篠原（東）、玉井

見どころ：秋のシギ・チドリ、アジサシ、コアジサシなどの渡りの時期です。野鳥誌8月号の特集記事のなかでも取り上げられた三番瀬、その広大な干潟を一度は見においでください。干潟に生息する多様な生き物を見ることが出来ますよ。

注意：海浜は紫外線が強く日陰もないので帽子は必ず携帯してください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月13日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本、中里、高橋

見どころ：まだ暑さの残る日がありますが、バードウォッチングを楽しみやすい季節となりました。夏鳥は天候不順のためか少なかったけれども、これからの季節はどうでしょうか。たくさんの渡

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

来を祈りながら、秋風と共に歩きましょう。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月15日（火・祝）

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。特に下記の地点では、より多くの会員のご参加ご協力をお願いいたします。

◆秋ヶ瀬（浦和市・大宮市）

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角 近くの土手の上、グラウンド入り口。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定です。調査のため参加費は無料です。雨天でも行います。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月20日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森

見どころ：今年の秋は早いのだろうか。季節の移り変わりが何だか早く感じられるのは、世相のためか。でも世の移り変わりと関係なく見沼田んぼは、後世に残していかねばなるまい。秋の見沼でそんなことも考えてみよう。のんびり心を休めにおいで下さい。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月20日（日）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:24→坂戸にて越生線
乗換え8:43発、または寄居7:26→小川
町乗継ぎにて坂戸乗換え、JR川越線大
宮7:55→川越にて東武東上線乗換え

担当：藤掛、高草木、石井（幸）、青山、久
保田、志村、増尾、佐藤（壮）

見どころ：天高く馬肥ゆる秋、野鳥たちは自
然の中に実りを、どのように探して飛
び回っているのだろうか。カヌー遊び
や釣り人たちも去った静かな高麗川で
観察しましょう。

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日（水・祝）

集合：午前9時 秩父鉄道寄居駅北口

交通：秩父鉄道熊谷8:23発、またはお花畑
8:13発、または東武東上線川越7:46発
で小川町で乗り換え

担当：小池、藤掛、林（滋）、堀、井上、堀
口、喜多、後藤

見どころ：澄んだ青空と絹層雲、風をわたる
タカ、梢にエゾビタキ、道端のキンミ
ズヒキなどなど、たくさんの秋を探し
ながら、鐘撞堂山頂までのんびり歩き
ます。ハイキング用の足拵えと、飲料
水、昼食は持参してください。

『しらこぼと』袋つめの会

とき：9月26日（土）午後1時～2時頃

会場：支部事務局108号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月27日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:36発
に乗車

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、
小野、中村（祐）、山本、久保田

見どころ：入会したけれど、探鳥会はまだと
いう方、入間川でウォーミングアップ
はいかがですか。身近なところで意外

と沢山の鳥たちが見られますよ。鳥見
の後はキンモクセイが香り始めた公園
でランチにしましょう。

タカの渡り調査

期日：9月27日（日）

恒例の調査です。一日空を眺めているだけ
で貴重なデータが得られます。初めての方も
お気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止。こ
の場合10月4日（日）に延期します。調査の
ため参加費は無料です。

◆天覧山（飯能市）

集合：午前9時から正午迄の間、ご都合の良
い時間に山頂展望台へお越し下さい。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分

担当：佐久間

他に下記の地点でも調査を行います。

◆鐘撞堂山山頂（寄居町）

◆丸山山頂展望台（横瀬町）

◆物見山山頂展望台（東松山市、鳩山町）

調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方
はご都合の良い時間にお越しください。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会

期日：10月24日（土）～25日（日）

集合：24日午前9時10分、JR長野駅改札口前

交通：長野新幹線「あさま551号」（東京7:08
→上野7:14→大宮7:35→熊谷7:49→高
崎8:05→長野9:04）、または「あさま1
号」（東京7:30→大宮7:53→長野8:53）

費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス
代、保険料など）。万一過不足の場合
は現地清算、集合場所までの交通費は
各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）

申込：往復葉書に住所、氏名、性別、年齢、
電話番号を明記して、菱沼一充
まで。

担当：菱沼、大坂、藤掛

見どころ：紅葉真っ盛りの戸隠を散策しま
す。ムギマキ、マミチャジナイに出会
えたら最高です。もちろん、新そばの
季節、食の方も期待できます。

行事報告

5月23～24日(土～日) 長野県戸隠・飯綱高原
参加: 31人 天気: 23・晴、24・晴後雨

カイツブリ カルガモ トビ ノスリ キジ オオジシギ キジバト カッコウ ツツドリ フクロウ ヨタカ ハリオアマツバメ アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ マミジロ クロツグミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (53種) 今年季節の変わりが早いとのことだったが、一の鳥居でバスを降りると蝉時雨がうるさいくらいだった。木々の葉もすっかり繁っている。取りあえずイカル、カラ類を見つけ、幸先は良かった。園内と別荘地を歩く。思ったよりも鳥が少なかったが、新緑の中の散策は気持ち良かった。バスで鏡池まで移動し、記念撮影後、池を一周するが、収穫は少なかった。宿に到着後、宝光社にお参りする。御利益あって、オオルリを見つけたり、アマツバメとハリオアマツバメの乱舞が見られた。翌朝は、久しぶりにオオジシギのディスプレイライトが見られた。野鳥のコーラスの中を森林植物園に向かう。キビタキ、コサメビタキ、アカハラなど次々に現われる。今年参道でマミジロ、フクロウを運良く全員で見ることができた。朝食後はあいにく天候が崩れ、土砂降りとなったが、早朝探鳥で十分元が取れた。(菱沼一充)

5月24日(日) 本庄市 坂東大橋
参加: 24人 天気: 曇時々雨

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ ウズラ キジ コチドリ イカルチドリ シロチドリ イソシギ アジサシ コアジサシ キジバト カ

ッコウ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 集合時間に合わせたような大粒の雨。それでも意を決しスタート。河川敷を歩く。コアジサシはフライトしていたが、ツバメチドリがご不在でがっかり!! それでも、アジサシやセッカの舞い、そして帰路にはこの時期珍しいノスリの姿を全員で確認できた。鳥合わせ後は再び大雨!! ホッ!! (町田好一郎)

5月30日(土) 栃木県 奥日光
参加: 29人 天気: 雨後晴

オシドリ マガモ トビ クマタカ キジバト カッコウ アマツバメ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ビンズイ モズ カワガラス ミソサザイ コルリ ノビタキ マミジロ ウグイス キビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ ホオアカ アオジ イカル ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 天気が心配されたが、スタート直後に雨も上がり、晴れてきた。鳥も出始め、キビタキ、ミソサザイ、オシドリなどが湯川沿いで見られた。戦場ヶ原に入ると、ノビタキ、ニュウナイスズメが何度も現われ、上空にはクマタカも出現して大感激。ズミやワタスゲの花も満開。さわやかな若緑の空気を一杯吸い、鳥も一杯見られ、すばらしい探鳥会だった。(中島康夫)

5月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 20人

赤塚義正、荒木恒夫、江浪功、海老原教子、大坂幸男、金井祐二、倉林宗太郎、島田恵司、志村佐治、藤野富代、前澤明男、増尾隆、松村禎夫、百瀬修、森力、谷津弘子、山野庸子、山本義和、山本和樹、和田康男

6月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 48人 天気: 曇時々小雨

カイツブリ カワウ ゴイサギ カルガモ キジバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ コシアカツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 時々小雨がバラつき、カッコウ、ヨシゴイも不発。数少ない出現鳥の中で、バン、カイツブリ、カルガモの親子連れと魚をくわえたカワセミが印象に残った。コウゾの実からマジックファスナーの着想を得たという小淵氏の話はおもしろかった。鳥合わせ後の高氏によるスライドを使ったオオタカ調査報告が好評だった。(岡安征也)

6月7日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 51人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ ヨシゴイ カルガモ キジバン オオバン コチドリ コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) アシ原を渡る歌声は、オオヨシキリと初登場のコヨシキリ。期待どおりにヨシゴイ、カルガモの親子が見られ、春から定着しているコアジサシも見事なダイビングを見せてくれた。芝川調節池の工事が進み、大きく変わりつつある差間。池の周りは護岸をコンクリートで固めないため、草が生え、アシが生い茂っている。今後も鳥たちが住みやすい環境であってほしい。(手塚正義)

6月14日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。

6月21日(日) 浦和市 三室地区

参加: 58人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コジュケイ キジバン コチドリ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシ

ブトガラス (27種) 5月は雨で探鳥会は中止となったが、今回は実施できた。2年ほど探鳥会では出現しなかったカルガモの親子連れが、2組も見られて、参加者の歓声を浴びた。オオヨシキリの鳴き声、姿にみんなが興味深いようだった。全国的に有名になった黄色いリボンが今日も大活躍。今月も鳥を通じて、みんなの輪が広がって行くのが、リーダーを喜ばせた。(楠見邦博)

6月21日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 58人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ トビ オオタカ コジュケイ キジバン コチドリ イカルチドリ キジバト ホトトギス ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) ヤマセミを求めて1時間前から人が集まった。ここの探鳥会で最高の参加者数に対応して臨時のリーダーをお願いするとともに、参加者には過去5年間の出現鳥の記録を手渡し、野鳥との出会いの難しさを認識してもらった。カヌー遊び、釣り、バーベキュー等の人たちに場所を取られて、ヤマセミの姿を見ることはできなかったが、オオタカが止まっていた身代わりをしてくれた。ササゴイ、トビ、コチドリ、ホトトギスを初記録した。(藤掛保司)

6月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ホランディア: 19人

荒木恒夫、海老原敦子、大坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、篠原東彦、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、丹茂子、藤掛保司、藤野富代、本田修二、本田淑子、増尾隆、百瀬修、山口静江、山野庸子



アマサギ (蟹瀬武男)

連絡帳

●本部の事務局移転

本部の渋谷事務所が、ウッディ南平台ビル2階と、企画事業部、会議室の3ヵ所に分散しており、しかも企画事業部にはバードショップも同居していて、全般的に狭くて不便であることから、1フロアに集約できて、現在の合計面積よりも広くなることに、移転することになりました。

移転先は、〒151-0061 渋谷区初台1-47-1
小田急西新宿ビル1階

TEL 03-5358-3510 FAX 03-5358-3608
で、京王新線初台駅から徒歩2分。移転の時期は、9月半ばの見込みです。

●住所変更などの連絡先

会員の皆さんの名簿は本部会員センターのコンピューターで管理していますので、退会、住所変更などがありましたら、このページ奥付内の連絡先（本部）にご連絡ください。ただし、役員とリーダーの皆さんは、本部に連絡すると同時に、支部事務局の方にもご連絡をお願いします。

本部の連絡先は、上記の移転に伴い変わるはずで、わかり次第書き換えます。

●カスミ網の復活を許さない！ はがきキャンペーン

日本野鳥の会を中心とした全国的な運動によって平成3年に所持販売が禁止されたカスミ網を、有害鳥獣駆除に使用したいとの意見が強く出され、それに反対する要請書を埼玉県支部としても各方面に提出したことは、本誌6月号でお知らせした通りです。

更に、本部の保護調査センター担当で、環境庁長官宛てのはがきキャンペーンが展開されることになりました。

カスミ網を使った有害鳥獣駆除は、対象種以外も高い割合で無差別に混獲されてしまい、それを防ぐには、識別できる者が1時間に1回程度見回らなければならず、駆除の方法としては現実的でないこと、駆除のために張られたカスミ網の盗難や不正使用によって

密猟が増える危険があることなどを指摘したはがきが『野鳥』誌8月号に同封されています。ご協力をお願いします。

●会員の普及活動（敬称略）

6月13日（土）、浦和市立郷土博物館・三室公民館・三室児童館主催の親子探鳥会。指導：楠見邦博・楠見文子・工藤洋三・倉林宗太郎・森力。テレビ埼玉が取材して、7月12日（日）『浦和歳時記』で放送。

●ごめんなさいコーナー

前月号7ページ、ツルシギとコアオアシシギの観察地「北川辺町渡良瀬遊水地」は「茨城県出島町」の誤り、9ページの写真の撮影者は、2枚とも「小松崎清」氏でした。

●9月の事務局 土曜と日曜の予定

12日（土）編集会議、研究部会議。
19日（土）校正作業。
20日（日）役員会議。
26日（土）袋づめの会。

●会員数は

8月1日現在3,087人です。

活動報告

7月17日（金）役員リーダーに普及部便りを発送（海老原教子、楠見文子）。

7月18日（土）8月号校正（海老原美夫・喜多峻次・喜多彌生・桜庭勇）。

7月19日（日）役員会議（司会：新堂克浩、事務局体制・その他）。

編集後記

この季節、私の職場に時々アオバズクが現われる。昨夕も、空にうっすら明りが残っている頃に歩いていたら、すぐそばのヒマラヤスギでホッホッという鳴き声。振り返って目を凝らしていたら、飛び立つ姿を見せてくれた。なんだかうれしい一瞬。（森本）

森本さんの“職場”とは、①森の中 ②公園 ③神社……どんな所だと思おう？（海）

『しらこぼと』1998年9月号（第173号） 定価100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒150-0036 渋谷区南平台町15-8 ウッディ南平台ビル2階
(財)日本野鳥の会会員センター TEL 03-3463-8842 FAX 03-3463-8844

印刷 関東図書株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用